発行日:令和5年9月 10 日　　電話:0120-087-052

第七十七号

会報 浄土真宗 太陽の会

太陽の塔桜ケ丘

【盂蘭盆会】開催報告

8月9日(水)に太陽の塔桜ケ丘3階本堂で【盂蘭盆会及び合同追悼法要】を執り行いました。

今年の夏は地球が沸騰していると感じるくらいの酷暑が続いていますが、皆さま如何お過ごしでしょうか。

午前と午後の部で分散開催。お集まりいただいた皆様と手を合わせ感謝いたしました。

今年は、安全を期して、午前と午後の二回に分けて、分散法要とさせていただきました。暑い中盂蘭盆会にお集まりいただきました会員の皆さまありがとうございました。法話では「私の中のいのちの数」という題目で私たちのなかにあるご先祖との縁の話をさせていただきました。

次回秋の彼岸会にも、ぜひお待ちしております。

「彼岸会　法要開催について」

○秋季彼岸読経開始時間

太陽の塔　高天原(広島)

9月22日(金)

・午前の部　10時30分～

・午後の部　13時30分～

太陽の塔　桜ケ丘(福山)

9月23日(土)

・午前の部　10時30分～

・午後の部　13時30分～

今回は、従来のように、参加者全員そろっての法要と致しません。時間になりましたら僧侶が読経を始めます。読経は30分の予定です。最後までご参加いただいても結構ですし、ご焼香は随時できますので、皆様のお時間のご都合に合わせて、お参りして頂ければと思います。

○大幅改修工事に伴うお願い

福山太陽の塔桜ケ丘では9月上旬より来館された皆様がより良い環境でお参りして頂けるよう改修工事を行います。皆様にはご不便お掛け致しますが、何卒ご理解ご協力お願い致します。

非売品　（宗）太陽の会　〒721-0945　福山市引野町南一丁目17番地32号

「親鸞聖人生誕850年」

今年、令和五年は浄土真宗を開かれた親鸞聖人の生誕八百五十年になります。

親鸞聖人は京都伏見（日野誕生院付近）、皇太后宮大進日野有範の長男として誕生され、九歳で出家されます。その出家された年に平清盛が亡くなっています。平安時代の末期になると源氏と平家の争いが激しくなります。親鸞聖人の父上も何らかの事件に巻き込まれ公家の役職を捨てられ僧侶となられます。親鸞聖人が九歳で出家された時は、伯父の日野範津綱さまに連れられ、慈鎮和尚慈円様のもとで出家されます。比叡山にのぼられ、常行三昧堂に仕える堂僧という勤めをされながら経典を二十九歳まで学ばれ修行をされました。しかし、どうしてもさとりに至らないことに悩まれた親鸞聖人は、京都の町中の六角堂にこもられ九十五日目夢で聖徳太子とお会いします。その事が縁で法然上人のもとを尋ねられ、他力念仏の教えの深さに感動され自身の念仏の教えを多くの人々に伝えられるのでした。

教えて仏事の事②

「分骨って良いの?」

よくある相談があります。

「主人が亡くなり、遺骨をご両親の要望もあって、故郷のお墓に納めることになりました。しかし、何分にも遠いので、お墓参りになかなかいけません。息子もこちらで働いているので、将来のことを考えて、こちらにも納骨壇を購入しようかと検討しています。ところが親戚に分骨は良くないと言われ、不安に感じています。分骨は本当に良くないのでしょうか。

「分骨は良くない」と思っている人は確かにいらっしゃいます。分骨することによって亡き人の身体が引き裂かれバラバラになるので亡き人が苦しむというのです。

これは、遺骨そのものを亡き人とみてしまっているからです。亡き人は遺骨「骨」ではなく、限定して捉えることのできない存在になっているのです。そうした亡き人の遺徳をしのぶご縁として遺骨があるのです。

遺骨を前にして、縁ある人びとが少しでも多く、亡き人を偲び、阿弥陀さまの広大なお慈悲に遇う事ができれば、むしろそれは喜ばしいことですし、分骨がいけない理由はどこにもありません。

お釈迦さまのご遺骨（仏舎利）のことを考えれば、なお一層はっきりします。

すなわち、荼毘にふされたご遺骨は、お釈迦さまを敬い慕う各国の人々に八つに分骨され、それぞれの国に仏舎利塔（お釈迦さまの遺骨を納める仏塔）が建立されます。そこからまた、分骨され八万四千の仏舎利塔が建てられたと言われています。それだけ、お釈迦さまのご遺徳を慕い、教えを信じ喜ぶ人びとが多かったということです。また自ずと湧き出てくるお釈迦さまへの尊敬の念が、仏舎利塔すなわちお墓を建てしめたのです。

こうしたお墓や仏舎利塔の出来た経緯を考えれば「分骨はいけない」という発想はおかしいとすぐに思うに違いありません。もし迷われている方がいらっしゃいましたら、当会にご相談いただければ幸いです。

「クイズ浄土真宗」

Q、お盆の由来ってなに？

❶ 石川五右衛門

❷ 仏弟子の目連尊者

❸ 賽の河原のお地蔵さん

お盆は、『盂蘭盆経』に出てくる仏弟子・目連尊者の故事に由来します。あらすじを言うと、目連さんが修行中に神通力で亡き母親を探したところ、餓鬼道に堕ちていることを知ります。餓鬼道は、自己中心的でつねに不足感を抱き、満たされない苦の状態を言います。これは、母親というものは餓鬼にならなければ我が子を育てられないということを暗示していると言えましょう。それはともかく、目連さんは母を餓鬼道から救おうとご馳走をふるまうのですが、それを口に近づけた瞬間、火になって燃え、ますます母親を苦しめる結果となります。そこで、お釈迦さまからアドバイスを受けた目連さんが7月15日（旧暦）の修行最終日に、すべての僧にご馳走をふるまったところ、母親は救われたということです。

こうして、親や先祖を思う気持ちと、仏法を敬い信じる心（僧供養で表されます）の大切さが、お盆の行事を通して伝えられるようになりました。

❶、❸のお話しは、俗説でお盆の由来の話ではありません。

Q、お盆の由来ってなに？

クイズの答え・②

「歎異抄（たんにしょう）を読む」

『歎異抄』は、親鸞聖人が亡くなった後、門弟の間に真実の信心に背く異議が生じたことから、聖人から口伝を受けた著者が、同心の行者の不審を除く為に著した親鸞聖人の言語録です。

たとえ法然聖人にすかされまゐらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからず候ふ。

釋蓮如（『歎異抄』第二条）

「私のための道が

ここにあった」

「法然聖人にだまされて、念仏して地獄に堕ちても、決して後悔しない」という言葉は、「他に自らの救いの道はない」という深い自覚と、真実の言葉を正しく伝えてくださる法然聖人に対する、絶対的な信頼の表れである。

「七月～九月のことば」

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらっしゃるとは思いますが、身近なやさしいお言葉として皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

【七月のことば】

正しいものに遇って
正しくない自分を　知らされている

「利井明弘」

「正しいものに遇って　正しくない自分を知らされている」というお言葉は、「お念仏の教えに出遇うことで、この私がいかに煩悩を抱えて自己中心的な生き方をしているのかを知らせていただく」と味わうことができます。浄土真宗のお念仏の教えとは、煩悩に振り回され、善行の一つもできず、とても自分の力では救われ難いこの私に、阿弥陀さまが声の仏となって届いてくださっているという教えです。阿弥陀さまが、「あなたはあなたのままでいい。私が必ずあなたを救う」と叫び続けてくださっているのです。

阿弥陀さまにおまかせして、大きな安心のなかで人生を進めてまいりましょう。

【八月のことば】

われもたすかり
人もたすかるというのが　仏教の教え

「曽我量深」

「われもたすかり　人もたすかるというのが　仏教の教え」とは、私たち凡夫は自らの力で往生の種を作ることはできず、あらゆるものの救済を誓われた阿弥陀さまのご本願により、われも人も救われていくということを述べられたお言葉です。

阿弥陀さまは、煩悩にまみれた凡夫であるこの私をなんとしても救いたいと、立ち上がってくださいました。そして、「必ず救う。まかせてくれ」と、南無阿弥陀仏のお念仏となって喚び続けてくださっています。阿弥陀さまのご本願を聞き、阿弥陀さまを中心とした生活をさせていただくということにほかなりません。我もたすかり人もたすかるということは、阿弥陀さまのご本願を、人生を通して仰ぎ続け、この身が老いや病によってどのようになろうとも、私は阿弥陀さまのお救いのなかにあるのだろ、感謝のうちにお念仏申して生きていくことをいうのでしょう。

【九月のことば】

「まこと」のひとかけらもない私に
仏さまから差し向けられた「まこと」

「石田慶和」

常に煩悩にとらわれて自分の都合の良い言動ばかりをしている凡夫に、「まこと」はありません。しかし、それでも私たちは自分のことを正しいと信じて疑わないことがよくあります。ときに自分の価値観を人に押しつけ、それを否定されれば腹をたて、口を極めて相手を非難することさえあります。自分の価値観に固執し、自分こそ正しいのだと、ときに他者を傷つけるような生き方をしている、そのような私のすがたに涙されたのが阿弥陀さまです。仏さまから差し向けられた「まこと」である南無阿弥陀仏こそ人生の依りどころであるのです。